

ゴミ減量化とバイオマス活用を

9月議会報告

「ゴミ減量化すすむ 市民の努力が反映

小矢部市の家庭から出る燃えるゴミ可燃ゴミ、燃えないゴミ不燃ゴミも、2011年度までに大幅に減っていることが明らかになりました(参考)。



砂田市議 質問する

分別収集の徹底(紙容器包装ごみ、ペットボトルプラスチック製容器包装)と新聞雑誌、段ボールなどの資源回収に市民が取り組んだことが功を奏したものと見えます。

ペレットボイラー導入 と放置竹林対策

バイオマス活用について砂田市議は、「木質ペレットボイラーの公

共施設への導入促進、放置竹林対策として竹の堆肥化、牛の飼料や、紙の原料に」などを提案しました。

産業建設部長は「ペレットボイラーについてはこの計画策定委員会で検討される課題の一つである。公共施設のボイラーについては当面更新を予定していないが、更新すべき施設が出てくればその段階でバイオマス活用

用推進計画策定委員会での検討課題である。市単独で生ごみの堆肥化施設をもつのは、発生する生ごみの面から難しく、従来の生ごみ処理器の補助事業の利用率の向上により、市民レベルの生ごみ対策のあり方を検討したいと答えました。

推進計画を参考に公共施設の導入を検討したい。

富山県は放置竹林対策として竹の堆肥化をめざして、竹を粉碎するチップ機の貸し出しをしている。また、県の竹資源ネットワーク化支援事業によって紙パルプの原料として有効利用されている。竹をパルプ化して牛の飼料にする取り組みについて石川県立大学などで試験的に行われており、バイオマスの有効活用の一として注視したいと答えました。

砂田市議は、日本共産党富山県議員団が2009年に国土問題研究会 理事長奥西一夫京都大学名誉教授、昭和37年設立)に依頼していた利賀ダム計画の調査と庄川水系の治水対策の中間報告をもとに質問しました。

中間報告では、利賀ダムの洪水調節効果が限定され、大きな治水効果が期待できないこと、利賀ダムによる洪水調節を中心とする治水対策の事業費が割高であること、利賀ダムが地滑り被害を拡大させる可能性が高いこと、三つの問題点を指摘し、国土省が計画している利賀ダムを中心とする庄川の治水対策は、庄川の特性にかなっていないと批判している。

そして約300年前から行われてきた松川(よ)や霞堤の整備

	家庭ゴミ回収分		持ち込み不燃ゴミ		事業系 可燃ゴミ	不燃・資源ゴミ	
	可燃ゴミ	不燃ゴミ		内事業系		収集	集団回収
1995年度	5394	1543	4636	59	998	-	-
2011年度	4141	301	1103	59	1740	565	543
増減 %	76.8%	19.5%	23.8%	100.0%	174.3%	-	-

利賀ダムによる治水効果はほとんどない

砂田市議は、日本共産党富山県議員団が2009年に国土問題研究会 理事長奥西一夫京都大学名誉教授、昭和37年設立)に依頼していた利賀ダム計画の調査と庄川水系の治水対策の中間報告をもとに質問しました。

中間報告では、利賀ダムの洪水調節効果が限定され、大きな治水効果が期待できないこと、利賀ダムによる洪水調節を中心とする治水対策の事業費が割高であること、利賀ダムが地滑り被害を拡大させる可能性が高いこと、三つの問題点を指摘し、国土省が計画している利賀ダムを中心とする庄川の治水対策は、庄川の特性にかなっていないと批判している。

そして約300年前から行われてきた松川(よ)や霞堤の整備

砂田市議は、バイオマス活用

産業建設部長は、バイオマス活用

富山県が昭和54年度から事業着手し今年度完成、これにより過去何度も見舞われた浸水被害が解消される効果が現れる。

泉町の浸水被害、今石動ボンプ場の稼働

小矢部川の水位が上昇したときに

介護保険組合議会 砂田議員の一般質問

介護従事者の 処遇改善を

砂田議員 高年齢介護の仕事は本来専門職として尊重されなければならぬ専門職として誇りを

介護の質向上の ために、必要

砂田議員 高年齢介護の仕事は本来専門職として尊重されなければならぬ専門職として誇りを

持つて働ける環境が必要。しかし現実にはなかなか職場に定着しない状況がある。夜勤勤務になると一人で何人もの高齢者を担当し、仮眠も十分とれない。そうだが夜勤をする職員が少なく、週に2回も夜勤をするといつ話も聞いた。事業所ごとに夜勤の手当が違いたいへん低いところもある。こうした状態を改善し、専門職として誇りを持って働けるようにすることは、介護の質を向上させることにもつながる。国がこれまで出していた処遇改

善臨時特例交付金が今年度から介護報酬のなかに含めることになったが、介護従事者の賃金に影響がなかったか、実態調査をするべきではないか。

介護保険組合事務局長 国の調査によると2009年10月から2010年6月までの間に給与を上げた事業所は74.8%、予定だが12.4%などだった。国は今年の10月に同様の調査をし、その結果を3月に公表する。組合独自の調査については、国でやっている中でその必要性は、いろいろその権限もない。

泉町周辺に浸水被害があったが、現在はほとんどなくなっている。石動西部地区、西町の浸水対策

後合雨水幹線は平成21年に整備を完了し、市街地を經由して流下していた石動西部地区の雨水を直接砂川に排水できるようになったことから、豪雨時に見られた西町付近の浸水被害はほとんどなくなった。

市の水害対策
効果を上げている

市の水害対策として、小神地区で床下浸水した横江宮川の改修や庄川左岸総合農地防災事業などについてどのように取り組んでいるのか。治水効果のほとんどない利賀ダムに10億円を超えるお金を使うくらいなら、これらの河川改修に予算を回すべきだ」と述べた。

市産業建設部長も確認

富山県が昭和54年度から事業着手し今年度完成、これにより過去何度も見舞われた浸水被害が解消される効果が現れる。

泉町の浸水被害、今石動ボンプ場の稼働

